

宮古

宮古と聞いて、どこの県にあるかパッと思いつくだろうか。沖縄ではない。沖縄にあるのは宮古島である。宮古があるのは岩手県である。2011年の震災で有名になったかも知れないが、その他にも一世を風靡したテレビドラマ「あまちゃん」の舞台になった

ことでも有名である。「あまちゃん」がすごいブームになったことから、ドラマに登場した三陸海岸や三陸鉄道は一際多く注目が集まった。私はあまちゃんのファンではないが、あれだけ世間で話題になった以上、やはりミーハー魂には火が付くものである。三陸鉄道には北リアス線と南リアス線があって、それぞれ宮古一久慈、盛一釜石を結んでいる。私たちが訪れたのは宮古駅なので、北リアス線の起点の駅にあたる。北リアス線は、沿線が海岸段丘となっていて、もう一方の南リアス線は、沿線がリアス海岸になっている。それ故、双方の風景は対照的になるわけで、なかなか面白い。



宮古駅には三陸鉄道の他に、JR山田線が乗り入れている。冷やかしのつもりではないが、こうやって地方の方に来ると、電車がなくて1時間に1本ぐらいである。時間帯によっては、2時間に1本の時もある。寝坊でもしようものなら大遅刻だし、時刻表を確認せずして、改札を通ってしまったら、かなりの時間を



無駄にすることになりかねない。でも逆に、そこまで時間に拘束されない生活というのは、私個人的には、羨ましい限りである。東京の方に出てくれば、毎日の生活はもう時間に支配されているのが当たり前である。東京で、1時間に1本の電車というのは、まず考えられないが、おなじ日本で

もそれが当たり前だという場所なんていくらでもあるという事だ。なかなか感慨深い話である。

2011年の震災時には、路線各所で路盤が流出し、いくつかの車両も使用不能となってしまった。全線が復旧し、運転再開に至ったのは2014年の話である。私の地元には久留里線という千葉県内で唯一の非電化路線がある。この電車もたしか頻度は1時間に1本ぐらいだった。高校時代、久留里線を利用していた友人が下校時、乗り遅れ、次の電車が来るまで、よく付き合わされたものである。

ノロノロと走る電車で、乗り遅れそうになって、ホームを猛スピードで走っていけば、車掌さんが電車をとめてくれたものである。当時は何気ない日常の出来事ぐらいにしか思って



浄土ヶ浜にはスワンボートもある

絶妙なコントラストの浄土ヶ浜



いなかったが、今となっては懐かしい故郷の思い出になったわけである。

当たり前のことかもしれないが、この三陸鉄道にも地元の人たちの色々な思い出が詰まっていたはずである。心の底から復旧を待ち望んでいたはずである。

そう考えたら、なんだか私も本当に嬉しい気持ちになる。

宮古の方に行って、これまた外せないのは浄土ヶ浜であろう。それにしても浄土ヶ浜ってすごい名前である。れいきよつりゅうこ 霊鏡 竜湖という僧侶がこの景色を見て、「さながら極楽浄土のごとし」とこぼしたことから名付けられたとされている。松の緑、海の青、岩肌の白といったコントラストは実に見事である。浄土ヶ浜の岩肌が白い理由は、5000 万年以上前にマグマの働きによってできた流紋岩という火山岩で、二酸化ケイ素を多く含んでいるが故に、白いのだという。カモメもたくさん飛んでいて、たしかに浄土にやってきたといった感じかもしれない。

夏は、海水浴で人が賑わい、冬は雪化粧を施した姿を拝むことが出来るという事で、四季折々、いろいろな浄土の風景を楽しむことが出来る。訪れたのが、ちょうどゴールデンウィークの休み中であつた事もあり、たくさんの人で賑わっていた。写真は撮り損ねたが、ご当地演歌歌手みたいな人も特設舞台で場を盛り上げていた。「名所」とまで呼べるかどうかは微妙だが、スワンボートも浮いており、家族連れなんかが



浄土ヶ浜のスワンボート

浄土ヶ浜の青い海と白い岩



週末にふらっと訪れたりする場所なのかもしれない。遊覧船も運航していて、どうやら青の洞窟というのが見られるらしい。沖縄とかイタリアにも青の洞窟はある。結構有名ではある。岩手にも青の洞窟があるというのは初めて知った。実際に見に行かなかった

から、どんな感じかは分からないが、面白そうではある。そういえば浄土ヶ浜は、駐車場があって、浜まで下りていくのに、すごい階段がある。降りてくるときはまだしも、帰る際に、来た道をまた登り返すのが大変である。若者やスポーツマンならまだしも、そうでもない人にしてみれば、もう浄土にまっしぐらといった感じかもしれない。

宮古市は自らを「本州最東端のまち」と掲げている。そういえばとどがさき鮫ヶ埼灯台という看板が目に入ったので、行ってみようとは思ったものの、結局、場所がわからずじまいで、渋々、帰ってきた。調べてみると、なかなか分かりづらい場所にある灯台で、なおかつ灯台までは歩いてしか行けないのである。入り口(?) から1時間以上歩かねばいけないとのことで、果たして見つけたところで、見に行く気になったのだろうか。この鮫ヶ埼灯台のある岬が本州最東端にあたるということだったので、まあ確かに貴重かといわれたらそうかもしれない。鮫ヶ埼灯台は日本の灯台50選にも選ばれている。そもそも、日本に灯台はどれくらいあるのだろうか。ネットで検索してみたら、少なくとも3,000基以上はあるみたいである。そのなかのトップ50に入るといえるのはなかなかではないだろうか。



浄土ヶ浜の岩

日本全国の港を廻ってきたが、なんだかんだ灯台は、そんなに見ていない。静岡の御前埼灯台ぐらいではないだろうか。あそこの灯台の周りにはもうすぐ住宅街といった感じで、狭い通りをずっと抜けていったのを覚えている。それから、行ったことはないけれど銚子の犬吠崎灯台もなかなか有名である。ここは日本国内で、元旦の初日の出が一番早くに見られることで有名であり、元旦になると多くの人が訪れる。行った友人の話聞いてみると、なかなか迫力のある景色が見られるとの事だった。よくネットで、灯台を画像検索すると、なかなか綺麗な景色が出てくる。とりわけ、夕日が沈む光景とマッチしている光景とか、崖みたいなところに、すごい勢いで波がぶつかってきている光景とか、どれもまあ見事である。考えてみたら、灯台巡りみたいな旅もなかなか面白いかもわからない。少し、調べてみようと思う。

岩手県はなかなか興味深いところである。今回、宮古の事を書くにあたり、正直、この一か所だけでどれくらい深く掘り下げられるかと思った。大変ではあったが、次回から訪れた際に、要所要所を細かく観察し、その場で色々調べてみれば、なかなか深い話になるのではないだろうか。その土地土地で、長い歴史があり、ここ最近でもホットな出来事が存在しているはずだから。次回からは、どこへ行くにも、その点に気を付けて、見てみようと思う。

ウェバー伊安